

公益財団法人 仁科記念財団

令和 3 年度（2021 年度）事業計画書

仁科記念財団の公益目的事業は、定款第 4 条に掲げられている通り、広い意味の原子物理学およびその応用に関する研究において（1）きわめて優秀な成果を収めた者に対する仁科記念賞など褒賞の授与（2）著名な研究者による仁科記念講演会など学術的交流・集会の開催（3）歴史的に貴重な資料・図書などの発掘・研究・保存・公開のための仁科記念室の運営（4）知識および思想を普及啓発するための出版物刊行などの活動（5）優秀な人材の海外への派遣および外国からの受け入れの助成です。

令和 3 年度（2021 年度）は、以下の公益目的事業を行います。

（1）仁科記念賞、仁科アジア賞の授与

仁科記念賞は、財団が創立した 1955 年に第 1 回が授与されて以来の長い伝統をもち、原子物理学の分野では最も評価の高い賞としてよく知られています。2021 年度（第 67 回）も例年通り、2021 年 6 月 1 日から 8 月 31 日の 3 ヶ月間、当財団ホームページ、日本物理学会誌、日本化学会誌等に仁科記念賞候補者募集要項を公表するとともに、広く学識者からの推薦を公募します。選考は仁科記念賞規程に則り選考委員会で行い、受賞者には、賞状、賞牌と 1 件当たり 60 万円の副賞を授けます。授賞件数は、3 件以内とし、選考結果は理事会の承認を得た後すみやかに新聞紙上等に発表するとともに、授賞理由を当財団ホームページとアジア太平洋物理学会連合（Association of Asia Pacific Physical Societies: AAPPS）の Bulletin 上に公表します。本年度の授賞式は仁科芳雄博士の誕生日の 12 月 6 日（月）に、これまでの受賞者、選考委員、運営諮問委員、助言委員、顧問、評議員、役員の参加する研究交流の場で執り行います。

仁科記念財団は、将来性豊かなアジアの若手研究者を鼓舞激励するため、2012 年度に仁科アジア賞（Nishina Asia Award）を創設しました。仁科アジア賞は、アジアに研究基盤を有して極めて優れた成果を挙げた日本以外のアジアの若手研究者（学位取得後 15 年以内）を毎年 1 名選考して、賞状と賞牌および賞金 40 万円を仁科記念賞授賞式の中で授与するというものです。2021 年（第 9 回）も例年通り、2021 年 1 月 1 日から 3 月 31 日の 3 ヶ月間、当財団ホームページに候補者募集要項を公表するとともに、広く世界の学識者からの推薦を公募しています。選考は Nishina Asia Award 規程に則り当該選考委員会で行い、選考結果は理事長の承認を得て本年 9 月初旬には受賞者に通知します。また、すみやかに当財団ホームページと AAPPS の Bulletin 上に選考結果を公表します。

（2）仁科記念講演会の開催

仁科記念講演会は、社会に原子物理学の真髄を知っていただくため、1955 年以来毎年、一般の参加を得て開催されてきています。本年度は、第 67 回の定期講演会を開催

します。

(3) 仁科記念室の運営

仁科記念室は日本アイソトープ協会の敷地の一角にある旧理化学研究所 37 号館（築約 90 年）の一室（約 40 平米）で、仁科博士が逝去された 1951 年 1 月以来そのまま保存されてきました。室内には、書籍、書簡など、わが国の科学技術の発展において仁科博士が果たした役割を再認識するための数多くの資料とともに、博士の往時を偲ぶ愛用の什器も残されていました。しかし、残念ながら当協会の敷地内建物再整備計画に従って、建物自体が数年内に解体されることになりました。そこで、この文化遺産を後世に遺すため、2020 年度、「仁科記念室内に保存されていた物品」を、理化学研究所（理研）に寄贈し当所和光事業所に移管しました。なお、小サイクロトロン・モニュメントは日本アイソトープ協会から理研に寄贈され和光事業所内に移設されました。

2021 年度は、理研に協力して寄贈した物品の保管・整理を進め、それらをホームページで紹介して行きます。

(4) 原子物理学の普及啓発のための出版物刊行など

本年度も、「仁科記念財団案内」を刊行するとともに仁科記念講演会の講演録をホームページ上に公開します。また、当財団が保有する歴史的な原史料を電子化して外部から系統的に閲覧できるようにホームページの整備を進めます。

(5) 原子物理学の研究における優秀な人材の海外派遣および招聘

本年度も、仁科アジア賞受賞者を、授賞式の前後約 2 週間、わが国研究者との研究交流のため招聘します。